

住まいの瓦版

秋・冬号
2011.11 114号

After



Before



基礎石が沈み蔵全体が傾いている状態隣の住宅に当たっていました。

平成の大改修

江戸時代 建築物
(元保・弘化、1830～1847年)

すべては **ご縁**

1年の時をかけてお化粧直し

幕末を見た蔵がよみがえりました！

きれいな秋空が広がる11月の初め、海田町内のある蔵を訪れました。漆喰の白が眩しく「なまこ壁」のかわいい蔵です。

ご先祖様から受け継がれたこの蔵を、ご自分の代で絶やしてはいけないと強く思われたT様。時と費用をかけられ、じっくりお化粧直しさせていただきました。

蔵の修理もピンキリあるようですが、土台から持ち上げ傾き調整、漆喰を塗り直す為に壁をはがし痛みを補修。そして下塗り→乾燥→中塗り乾燥→上塗り→乾燥。スピードが要求される最近の建築方法の中、1つ1つ、じっくりと施す姿勢は各職人さんの気持ちも上げてゆきます。それぞれの職人さんが昔からの技術をこの蔵にかけて下さいました。時には納得いかず『やり直す』という事もありました。それを文句言わず、ほんの少しの時と思って下さるT様の人柄を感じる出来事でした。

その蔵の中へ入ると2Fには1本ものの松の梁。時の流れに圧倒されます。外から射す光を見ると100年以上前、ここから見る風景はどうだったのだろうと思ってしまいました。何だかとても居心地の良い空気を持った内部です。

T様が、すべては「ご縁なんよ。」とおっしゃいます。T様が松川建設にお話を下さったのもご縁、そして集まった職人さん達とのご縁、こうして私がかちらにらせて頂いたのもご縁と。その縁をこの蔵と共に残したいとおっしゃって、作成したのがこの棟板です。どんな理由で改修し、だれがこれに携わったか。を記してあります。思いがけず、この蔵の歴史に私達も関わったことに感謝します。そしてこの板を快く書いて下さったのが左官職人さんの娘さん。この蔵をご縁に新たな繋がりができました。

静かにまた蔵の歴史が続きます。素敵なお仕事をありがとうございました。(松川 晶子)



完成後の蔵前で。T様と棟板を持った社長



棟板には工事の内容と携わった人の名前が書いてあります。